Sr. M. Kobayaci
Caixa 2-z

No 144　SEMANARIO DE SÃO PAULO　DIA 1 DE AGOSTO DE 1924

聖州新報

社主兼編輯人 香山六郎
發行所 バウル市ピオタン街 聖州新報社

ROCRO. KOUYAMA
REDACTOR DE SEMANARIO DE S. PAULO
CAIXA POSTAL 58
RUA PIOTAN
BAURÚ
ESTADO DE S. PAULO
BRAZIL

革命軍の退聖

旭日昇天の勢あつた革命軍も、去る二十五日より二十六日に亘る二十四時間、聖市郊外に於ける激戰に利あらず、聖州の頭脳たる首府より本營を遠く三百キロメートルの此奥地バウル市に移し、從つて主力軍隊も又聖市を引上げてしまつて來た。

革命軍の發表する処によれば彼等の退聖は敗軍に非ず。政府軍が毒瓦斯其他砲榴彈等有ゆる殘酷なる武器を使用しても聖市奪還を企てしにより、聖市市民の惨苦見るに忍びず、堂々野戰に移らんとして本營をバウル市に移すものと云つて居る。

南米的文明戰略として一應も應もむである。

革命軍は曩に伯國主力艦隊が反旗を翻しリオの政廳を砲擊中と公報らしく云ひふらして居た処、それは何かの間違ひであつたらしい。海軍力を持たぬ革命軍がサントスの港より遠く遠ざかる事は止むを得ぬ有利な事であろう。

マトグロッソ州軍隊を味方としパナナ・サンタカタリーナ・リオ・グランデ各州の軍兵を味方に組みたる上再たび聖市を包圍し奪還するの鬼謀ありとも噂して居る。

眞に明日と云ふ日のある伯人にとつては結構な革命騷動である。

バウル市に引擧げて來た三千からの軍兵は食をバウル市の各宿屋（ホテル）に命じ滿して居る。

退軍の急遽なる場合とは云へ革命本部に一の兵糧部即ち輜重の伴なつて居らぬ組織軍隊は、吾々日本人の眼からは確かに奇觀である。

嘗て聞く処によれば支那の土匪の起るや先づ兵糧の煙より始むと。伯国の革命軍より見れば支那の土匪は眞に餓鬼道に落ちた喰シ坊の寄合と見らるゝであらふ。

だが一將功なつて萬骨枯る。

吾人は伯国現時の革命に支那人の古い此憾を繰返へさせられはせぬであうふか。

千九百二十四年七月五日サンパウロ市に勃發せる

伯國革命宣言書意譯

序文

今回サンパウロ市に勃發せる革命運動に對する在留民の心得は黑石時報子が七月十日号に例の修身讀本的句調で述べて居る様だが、吾々は此際革命派の主張を忠實に知る事が伯国の政情を學ぶ上に於て最も必要であり且趣味があると同時に又他山の石ともなり得る點も多々ある様だ。

革命は停滯し腐敗せる空氣を一掃する上に於て、時に必要である。專横にして傲慢・不公平にして私的野心の奴隷たる厭制的の不正官憲公私交混の惡德役人を葬り去る特効劑である。　知らず、今回革命前の伯国政界に這般の腐敗官吏跋扈し居たりしや否や、將又日本官憲の奉公報国の心掛及實踐の程度如何？須らく當路者の反省を俟たんのみ。

偶々時報紙上革命宣言書の意譯を讀み原文と多少遠ざかり居る箇所を發見したるを以て、次に小生の讀んだ右宣言書の意譯を掲げて以て革命黨の眞意をより能く有志の士に知らせたいものである。

●意譯主文

革命黨首領連は當市の言論機關代表者諸氏と相會するの機を求め居りし事は頗る切なるものありたり。蓋し速に革命運動の根本理由を公表し且つは又革命の目的を聲明せむ事を欲し居るればなり。若し夫れ其の之れを本日に至るまで爲し得ざりしに至りては一ツに新聞條例と並に戒嚴令施行の結果生ぜる環境との威力に牽制せられ居たりしに外ならず。

萬事をさて措き今回の革命は單にサンパウロ州（共和国中此の區劃）に於ての實現し得るに至れる單獨行動にあらざる旨に就て天下ノ注意を喚起すべきの必要を認むるものとす。かるが故に數ケ月の久しきに亘りて準備怠りなかりしものにしてサンパウロ、パラナ、サンタカタリーナ、リオグランデドスール、ミナス及マトーグロッソ」に於て一齊に勃發す可かりしものたるなり。

然るにも不拘不期待の環境に基き遂に豫てより打合せありし齊行動に出でずして突發するに至りたる次第なり。然虽此部分的勃發は他の革命派の信念並に活動の效果を減殺するが如き事絶無なる可きを確信して疑はず。

事情如斯にして、国家的性質を帶べる此の歷史的の擧たる、聯邦政府並に苟くも革命軍政綱の遂行に必要なるべきが如き州に於ける政府の根本的改革を以て之れが目的となすものとす。

若し夫れ聯邦政府に至つては先づ第一に次記の事を看過すべからず。即ち軍隊は「アルツール、ベルナルデス」氏の政府を現在是認し能はざるは勿論過去に於ても亦決して是認し得ざりしものなりき、殊に同氏に關する個人的經緯上尚更に然るものあり。

既に公知の事實たるにも不拘同氏により軍隊が被りたる頗る重大な侮辱は今尚旧の如く依然として其痕跡を留む。　然も本革命は「アルツール、ベルナルデス」氏個人を目的とするものにあらず。何となれば斯くの如きはやがてその之れが依而成れも、而して今、目のあたり伯国民の面前に開展しつゝある革命の至高なる意義を減少す可きを以てなり。革命の目的の一は現聯邦政府の更迭にあり。

蓋し吾人の見を以てすれば現政府は国政を料理するの資格なく又各種の事實（事極めて顯著なれば今之れを一々列擧するの要なし）に依り最近伯国を統治し來れる缺点勝なる政府の延長たるに外ならざることを現實に示せるなり。

惟ふに專横、妥協、果ては情意投合を之れ事とし、政權にのみ戀々として他を顧ず而も最高行政の道に暗愚なる此等歷代の政府は滔々として国力を疲弊せしめ国の內外に對して、祖国をして滅亡の境に逢着せしめずんば止まざらんとせりしもの比々皆然り。

軍隊は野心を有せず。果又顯職に留る事を慾せず、吾人の行動は沒我的にして愛国心を以て其基本となす。伯国同胞博愛主義に依るものとす。

斷くの如くにして革命派主領連は其、行ふ論難攻擊に對して一點の識排一部の共和論者に示さんと欲す。蓋し彼等は極く少數の例外を除き、身は国家の要職に座しながら公事に直面して一片奉公報国の正道を辨へざる非輩なればなり。軍隊は帝政が吾人に殘せしが如き、彼の道德至上主義愛国的精神並に振肅せる官記と高遠なる政治的理想を有する国家を熱望するものなり。今や伯国は當しく虐政の巷と化し果てゝ国民の功罪を更に識別するの餘地なく權勢に近くの第一條件として執念深き奴隷根情ヲ以てするの實狀は それかあらぬか、野心の挑發にあふられて多々益々普及し漫延し、遂には社會的惰落の因をなすに至れるなり。国民は今や全く無能力の域に逢着し、徒に在朝權力者の壓迫によりて民意は愈々出て愈々益々息をひそめ、新武兵器を具有する政府は武裝なき一般国民の無抵抗に乘じて民權行使の適法機關たる選擧場裡に於ける自由意志の發表を遮斷し來れる事數ふるに暇なし。

共和宣言の當時軍隊は国憲に忠實ならん事を誓約せり。かるが故に畢竟軍隊は国民に對して憲法の完全なる運行を其伯国市民及軍人としての名譽に賭けて保證せるの立場に立てるなり。事情かくの如きものあるの一事はやがて今回軍人階級のとれる態度を辯明するに充分なりとす。蓋し軍人は何としても伯国々民生活は更なり其內政並に對外關係等に超然たる事能はざるものなればなり。從來の政府は餘りに無責任極まれるものありたり。斷くて徒に国家の信用を亂用し遂には国際關係に於てすら其の累を国家に及ぼすに至れり。即ち例へば一部無思慮極まれる軍備論者の利害關係に動かされて採用せる戰鬪行爲の如きこれなりとす。

政治的憤怨にかられて個人的報復を之れ事とし以て極度に国民を壓迫し來れる現聯邦政府はかゝる事實への一例を示せり。試に見よや最近の失政を、即ち我国をば外国金をして棚卸しせしむるの憂目遭はせて遺憾なきのみか、我国の名譽に關する重大なる警告をすら含み居る英国視察團の意見書をば政府親ら進んで發表して何等憚る所なきはそも何事ぞや、

既に本宣言書の初頭に於て述べし吾人の自由主義及沒我主義を茲に再び重表書せん爲に吾人は伯国中の他州と等しく「サンパウロ」州なるものは智德兼備にしてサンパウロ州の尊き歷史の薫陶を受けて人と成れる且つは又サンパウロ州をして能く全伯国德化運動の一驍將たらしめ得るが如き聖州人の政府に依りて統治せらる可きを希望して止まず。

革命派主領連は如上の目的に向って大々對策を講じ「アントニオ、プラード元老」をサンパウロ州統領に戴かむとす。若し此聖州人が吾人の信憑に稍く能はざる職責に任じ得ざるに於ては、他に能く時局を拾收し得可き人材を發見するに難からざる可し。

吾人の此際努めてサンパウロ市民に對して公言したき一事は革命派は安寧秩序の維持及正義の大道を遵奉するに於てあらゆる努力を、措しまざる可き事之れなりとす。此意味に於て次記の事を確言して憚らず即ち掠奪、破壞又は火災等に就ては一切吾人の關知せざる処たると同時に、何等の責任をも有せざるものたるべし。

尚又吾人は極力人命財産の損傷を防ぐ可く出來得る限りの犧牲を忍ぶ可し。即「ルス」地方に於て或種の軍事行動を採らざりしは一ツに該地方附近に存在せる人家及寺院等を考慮したるの外ならず。尚吾人は秩序恢復に至る迄引續き前記の如き行爲なき樣充分なる方法を講ずるにやぶさかならざる可し。依而今民は自由に市內を交通し、又平常の職務に復歸し得べし。但し敵軍にして万一其の確言するが如く我軍の守備線攻擊を再開する場合に於ては此限にあらず。今やサンパウロ市は革命運動の中心たるなり、而して吾人は既述せる秩序と愛国心とを以て全伯国に這個運動の普及を期するものなりとす。　言論機關は其奉ずる主義政綱の如何を不問、凡て吾人は之れに對して意志表示上完全なる保証を與ふ可し、而して革命派は苟くも誠意と愛国心とより生ぜるものたる以上如何なる抗議、論難たりとも之れに聽き以て其の正邪曲直を攻究するの勞を厭はざる可し。尚又吾人は吾人に對して希望條件又は願望事件を有する人あらば如何なる人たりとも之れを喜んで應接すべし。

本革命は憤怒と愛国心との結晶たるに他ならず。現聯邦政府は国民の後援を有せず、否一旦緩急ある場合国家の名譽防備を双肩に荷へる者の後援をすら有せざるなり。即ち伯国民の政府にもあらず、將又軍隊の後援をだも有せず。蓋し軍隊を構成するものは、楷行社宣言の署名者並に其當時之れによりて代表せられ居たりし者に外ならざるを以てなり。

若し吾人の意圖にして国民的感情を具體化し居るものなりとせば吾人は国民擧つて吾人の擧に贊同の意を表せん事を期待するの切なるものあるを感ず。吾人は此擧を飽迄貫徹すべし、而して若し万一時利あらざるに於ては吾人の沒落と共に国家的理想は葬り去らる可し。

サンパウロ市長始め凡ての市長は現職に止まるべきものたる事を国民一般に宣明す。

（了）

K.A

Dr. MILTON DE SOUZA
MEDICO E OPERADOR
ドットール
ミルトン、デ、ソウザ
何時でも診察に應じます
北西線 グワイサラ驛
グラテ薬局隣

Dr. SASADA
MEDICO E OPERADOR
北西病院長
ドットール
笹田正數
リンス市ルイズガマ街

Dr. ALIPIO DOS SANTOS
臨床・手術・産科
サンタカーザ係醫 アリピオ、ドスサントス
バウル・ルア アベニダ

A PREFERIDA PELA HONRADA COLONIA JAPONEZA
PHARMACIA NOROESTE
ファルマシアノロエステ
バウル市 バチスタ街

Dr. GOYANNA
告賣
小生の治療所を小生の助手十年のドットールCALIXTO氏に讓し申候
ノロエステ病重ドフエーダブラバに關し同氏は小生の虎之巻を得居候者、此病患者はドットールカリスト氏へ診察御依頼可然候
ゴイアンナ

Dr. CALIXTO
ドットル
臨床・外科
内科・産科
カリストデ、メデイロス
バウル・ルア
アントニオ・アルベス四二

LARGO DA CADEIA
・内外各国の珍品薬種を備ふ
・血液、大小便、濃汁等に對する顯微鏡檢査を行ふ
アベニーダ薬局
・薬價低廉、顧客本意
バウル、ルア アベニーダ

Dr. JAYME HALFELD
民事、商事、刑事其他
辯護士 ジヤイメ、アルフエルド
事務所 バウル市八月一日街

革命軍本營バウル市に移る

二十八日夜八時聖市アベニーダ・プレジデンテ下本線を距えたる革命軍の主將イジドーロ・ロペス將軍は幕僚のパウロ・オリベイラ、ジョアン・フランシスコの両大佐と軍政カブラル・ペーリオ中佐、本部附大尉メンデス・テイシエーラ其他幾多の將校と共に聖市を退去し、パウリスタ線を經てバウル市に來着、茲に柳營を置く事になつた。

革命軍の發表によれば聖市々街戰に於ては政府軍より毒瓦斯、榴彈其他有ゆる猛悪の武器を以て攻撃し來るにより市民に惨禍を被らするに忍びず、革命軍は野戰に於て彼政府軍を粉砕すべく本營をバウル市に移せり。敗戰にあらず、策戰上豫定の退却と云つて居る。

●バウル市の柳營

イジドーロ將軍は鼠色のマントを被て居る。帽子は薄藍色の鍔廣で正面に銀色星形三ツを正三角型につけて居る。伊太利人型（イタリアーノ）で、肥えては居らぬ中肉中丈である。前額の禿げた人々には一見全くの好々爺式である。鼻下は白髭が薄い。

ノロエステ驛前のカリアニホテルを本據として居る。

ジョアン・フランシスコ大佐は無髭、肥大な快濶漢である。

二十八日の夜から二十九日朝迄パウリスタ線の列車が七台ついた。

歩兵が重で砲兵が一列車、七門（臼砲四門、十八サンチ砲三門）を積んで着いた。

歩兵中機關銃八門を持つて居た。

兵士の食糧は當市の各ホテルに割あて、満し居るので各ホテルの困難つたらない。

兵營としてはグルップ學校は勿論ビジョコテアトロ建物セントロ・カトリコ建物其他大きな空いた建物は、倉庫も弾薬外も兵で充満して居る。

●危險な事夥しい

各兵の銃にはいづれも實彈が装填してある。銃になれぬ兵共の寄合であるからどうかしたはずみにポーン・ポーン・ポンポンと過つて發射するので全く危險な事夥しい。

三十日午前九時半一兵卒の發射せる過失の彈は向側に居た一兵卒の臍の下から腰に貫けた。カリアニホテルの横で起つたが負傷者は沖山旅館に一時運び入れ治療の爲めサンタカーザに自働車で運んだが間もなく死んでしまつた。

アイ…アイ…メウ・デウス…と繰返した聲が記者の耳にまだ殘つて居る。

●革命軍中の獨逸兵

聖市に於て豫て問題になつて居り、獨乙領事は「独乙人にして此度の革命騒擾いづれの軍に投じたるものも独乙の国籍を離脱さす」旨の告示を發して居るが、その独乙人が革命軍中に三百名ばかり居て立派に獨逸人だけにて二中隊を組織して居る。

彼等独逸人は若いもの許りでなく老兵も居る。指揮官は独乙青年將校である。

世界の軍国と呼ばれた丈に彼等革命軍の独乙兵も寄合兵であるが、何うしてく軍律・規律立派なものだ。活潑で、敏捷で、服装も整頓して居るし、伯国の正式軍隊も遠く及びそうもない。

革命烏合軍中の白鶴軍。

イジドーロ將軍恐らく彼等を中堅と頼んで居るであらう。

彼等の隊は三十日ソロカバナ線ボツカツ驛向けて出發した。

●革命軍の主兵力

二十八日夜より三十日迄バウリスタ線よりバウル市に集つた兵力は六千と呼ばれて居る。吾々人の眼には四千内外としか想へぬ。

砲數　二十門（臼砲十二門、十八センチ砲八門）？

騎兵隊　一大隊

他は皆歩兵である。

眞に軍隊教育をうけたものは半數であろふ？

●革命軍

政府筋の貨幣を奪集す

革命本部がバウル市に移ると共にバウル市に於ける政府筋の關係せる処よりは皆貨幣を奪ひ集來した。

一、バンコ・ド・ブラジルより。

二、コレトール・エスタドアル（百二十コントス 支拂十七コントス 差引残額）

三、ノロエステ鉄道局より（五十コントスと呼ばる）

四、カイシヤ・エコノミコより。

因にノロエステ鉄道從業員にはそれぐ月給の停滞せるもとを支拂ひ30/100の増額をなし支拂せりと。

●革命軍出發す

ソロカバナ線ボツカツ驛より戰線に入る

三十日午后三時よりバウル市驛よりソロカバナ線の兵は軍装をとゝのへて續々ソロカバナ線の汽車にて送り出された。目的地はボツカツ驛といふ事であるが政府軍（イタペチニンガ驛にある）ベルナルド・プレスタス副統領の率ゐる兵と會戰すべく豫期さる。

戰場は何んでもピラシボイア驛かサルガード驛附近に於てなるべく噂專らである。

三十一日夜十時半頃主將イジドーロ將軍を送り出したジョン・フランシスコ大佐が最後に出發する時間である。

驛にバウル市長ドットールペリゲリオ氏も親子で送りに來て居らる。其の他市の有志家連も。

市長は大佐と鳥知の仲らしく大佐に贈るに藥場二ツ。

市長と大佐と最後の握手を交した。汽笛の響音が終ると汽車は靜かに動き出した。見送る人々の周圍には暗い夜が殘つて居た。驛前のカリアニホテルの門電燈が眠むそうに。

●食糧益々窮迫す

バウルの必要食糧品益々窮乏し、パン粉も來る十五日までしかたらぬそうだ。

●バウル守備

バウル市にはメスキータ大佐が守備して居る。斯くてバウルの田舎町は世界的に名高くなつた。

●商業閉止す

バウル市の商業は閉止してしまつて居る。底力なく衰微に耽けてしまつて居る。

●市民の避難

バウル市民はボツ／＼と附近の田舎へ避難を始めた。政府軍の來襲と乱暴を恐れて。

●マトグロッソ師團將校來援

革命戰に合せのためマトグロッソ師團より三將校バウル市[illegible]る

●北西病院寄附者（第三回發表）

（註）本回發表分は全て拂込既済のもの。

驛名	姓名	金額（ミル）
ペンナポリス	西吉太郎	二〇
〃	高津宗一	〃
〃	前田初造	五〇
〃	宮石和作	〃
〃	荒木藤作	〃
〃	隈部清	〃
〃	田代美之喜	〃
〃	佐藤富雄	〃
〃	島田勝造	〃
〃	栗正	〃
〃	岡本次郎	二五
〃	出水不喜	〃
〃	瀬戸欽次	〃
〃	田中繁喜	〃
〃	宮本須喜	〃
〃	荒崎初次	〃
〃	松村亀雄	〃
〃	稲永金造	〃
〃	田吉平	一五
〃	小原市造	〃
〃	岡本作太郎	〃
〃	宮本政重	〃
〃	木村廣平	〃
〃	平藤作	〃
〃	栗飽忠造	〃
〃	田村三吉	〃
〃	田形藏三郎	一〇
〃	山本藏	〃
〃	滝井晉駿	〃
〃	宮本勝馬	〃
〃	小沢清馬	〃
〃	鳥越吉	〃
〃	菓鶴留雄	〃
〃	梅田半造	〃
〃	岡本忠吉	〃
〃	永松弥三郎	[illegible]
〃	西山桂太郎	[illegible]

合計一コント三百七十五ミルレース

累計三十コントス二百二十五ミルレース也

社告

革命戰爭のためバウル市はソロカバナ線もパウリスタ線もノロエステ線も全て交通を遮断されましたので本紙の發刊も毎週一回とは云へ、紙の經濟上二頁にするの外なき期に至りました。本週よりそう致しました。戰後交通も開け紙も不便でない場合は舊に復させます。

●政府軍の入聖

三十日午前九時政府軍は革命軍の撤退せる聖市に入り茲に再び聖市を奪還した由。

土地賣却

●位置　グワランタン驛より七キロ半の地點

●高度　海抜五百メートル……五百七十米

●面積　百五十アルケール（内九十アルケールは未墾）

●地味　肥沃にしてカフエ栽培に好適す

●植付カフエ八万五千本（内七万五千（五六年生）未七十分收穫、一万（一年生）一万アロバ）

●家屋　十三軒、●パスト十五アルケール

◆拂込方法　四ケ年拂

若し御視察の際は左記へ御問合せを乞ふ

ペンナ河尾氏宅　今村權藏

グワランタン驛　國崎重次

BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA, LTD

Rua da Candelaria 23

Caixa postal 380

Rio de Janeiro

リオ・デ・ジャネイロ

横濱正金銀行支店

金預（預金利息）

日本貨定期預金利息	六ケ月以上	年六分
伯貨　〃	六ケ月以上	年四分五厘
〃	一ケ年以上	年五分
伯貨當座預金（小口）		年四分

▲郷里送金▼

◆預送金用紙は御請求次第直に御送り可致御不審の點は御遠慮なく御問合せ被下度候

◆預金通帳は書留郵便にて御送付可申上候間御申込の際最寄郵便局御指定相成候はゞ御便宜に有之候

VENDEM-SE TERRAS
MARTINHO & FERRARI

大カフエ向きに上等な土地があります。大小の土地お望次第（四コントスから三十コントス迄）で賣却します。

場所は　バウル市、ピラチニンガ町、ゴヅルネーラ市、アグードス市、リオ・ド・ペイエ　附近にあります

◆地權確實、支拂簡易

バウル・カイシヤ五六　マルチン・フエラリ商會

ARENDAMENTO DE TERRAS
Dr. FRANCISCO DE FARIA BASTOS

▼貸地▲

アバイ驛より三基米の地點を日本人諸君に貸地として提供す。

バウル市　辯護士フランシスコ・デ・ファリア・バストス

（希望者ハ本社ヘ御紹介アレ）

CASA RIBEIRO
ANTIGA CASA CARVALHO
GUAYÇARA, NOROESTE

新規反物の投賣

雜貨・帽子・靴

調製衣服

金物類一切

陶器・乾物其他

種々・大安賣

カザリベイロ　グワイサラ

CASA SANTINHO
RUA B. DE CARVALHO 832
BAURU

帽子・履物

馬具類

旅行用具

カーザ・サンチーニヨ

バウル市ルア・バテスタ八三二

雜穀仲買

やうふあげ

北西線ペンナ驛　カフエランジア町

右田辰彦

富士山印醤油

釀造元　ペンナ驛トレスバーラ　藤澤豊次郎

御菓子

キゼイベンブロ　バール

リンス市ルア・ロドリゲス・アルベス

中川美彌喜

渡邊四郎

ゴンサルベス・サルバドール

商業部・工業部・銀行部・雜穀販賣部・土地賣買部・

本店リンス市　支店グリセリオ・グワイサラ・ペンナ其他各処

ALFAIATARIA
ANTONIO CARRAFIELLO
RUA B. DE CARVALHO
BAURU

洋服店

カゼミラ・ブリン・アルパカ・リンニヨ等にて恰好よく仕立ます

バウル市ルア・バテスタ八二

アントニオ・カラフエロ

SANTOS JUNIOR & Co
COMMERCIAES E INDUSTRIAES
COMPRAM MADEIRAS EM TORAS
CEREAES E ALGODÃO
VENDEM SECCOS E MOLHADOS
FERRAGENS E LOUÇAS
ETC.

本店プロミッソン

支店グワイサラ

サントス・ジユニオル

材木・穀類・綿花買入

雜貨乾物・金物・陶器販賣

ESCRIPTORIO COMMERCIAL
DE
BRAZIL CARIANI

◆市街地・耕地其他一切の土地の賣買登記

◆精算・割引・抵當・借地公證書・請願書類・届書類一切

（御求に應じ何でも御引受けます）

バウル市バテスタ一五〇五

ブラジル・カリアニ

平山商店

雜貨販賣

綿花雜穀仲買

ソロカバナ線　サンタクルス・リオパルド

西寫眞館

出張撮影

リンス市　西金藏

上田商店

雜貨販賣

雜穀仲買

プ・アルベス驛　上田留治

密屋雜貨店

カンポ・グランデ驛

出利葉平三

岡島商店

諸雜貨日本品販賣

雜穀仲買

ソロカバナ線セ・セザル驛

岡島仁郎

カイシヤ一九

九州旅館

バウル市（舊平田旅館）

加來晋一

御旅館

雜穀仲買

オリエンタール

プロミッソン驛

青木・平田共同

河尾ホテル

北西線ペンナ驛　カフエランヂア町

河尾利一

カイシヤ一〇一

ホテル

館主　國崎重次

土地賣買の御世話も致します

ノロエステ線グワランタン驛眞前

澤尾ホテル

バウル驛眞前（東ホテル向ひ）

澤尾磯七

日本旅館

バウル驛直ぐ前

沖山心平

鍛冶屋

北西線プロミッソン驛

木本改造

榎木旅館

リンス驛

酒場、菓子もあります

藤山旅館

邦人郵便物集配所

リンス　藤山鶴馬

大福旅館

リンス・北西病院隣

鈴木昌吉